

氏名：増田由茉

大学名、学年：浜松医科大学、3年

参加 session：SCOPH session

今回の March Meeting 2013 in the USA は、私にとって初めての世界総会であり、1から10まで何もわからない状態での参加となりましたが、IFMSA-Japan,各国のIFMSAの皆様のおかげで新鮮な刺激に溢れる時間を過ごすことができました。総会が始まってすぐに、今回が自身の学生生活の折り返しまで来てやっと初めての世界総会参加となってしまったことを心底悔やんだほど、本当に刺激的で、収穫の多い場でした。IFMSA-Japanの皆様には、特に低学年のうちに、世界総会参加に手を挙げてみることを強くお勧めします。

今回、得られた具体的な収穫は「1.世界で行なわれている活動の形」「2.海外派遣型のプロジェクト」を知れたことでした。

1. 世界で行なわれている活動の形

日本(SCOPH-Japan)ではあまり一般的ではないが、世界では盛んに行なわれている活動手段を知ることが出来ました。特に印象に残ったのは Campaign や Advocacy です。私は SCOPH session に参加しましたが、Project Fair などからも各国の SCO、Project の多くが Campaign、Advocacy を主な活動手段のひとつとして利用していることがわかりました。SNS など気軽に発信できる手段が一般に普及して「発信すること」の影響力の大きい現代に、そして、単なる学生ではなく「IFMSAの医学生として」何かを訴える、変える為には、Campaign、Advocacy はかなり有効な手段ではないかと感じました。

2. 海外派遣型のプロジェクト

SCOPH-Japan の AVP(Africa Village Project)や ACHP(Asia Community Health Project)のようにそのプロジェクトが所属する国(または NMO)ではない海外の地域にスタッフを派遣する Wolisso Project(S.I.S.M./イタリア)の話を知ることが出来ました。プロジェクトの成り立ちや現在の形態についても詳しく聞くことができたので、また SCOPH-Japan に還元したいと思います。

しかし、一方で、全体的には実際に海外への派遣を行なっているプロジェクトはほとんどなく、自分の国や大学のある地域で活動をするプロジェクトの方が圧倒的に多かったことも印象的でした。

そして、以上のような各国の活発な働きを知ったことで、SCOPH-Japan や AVP について改めて深く考え直す機会となり、これからの SCOPH-Japan について思い悩む苦しい時間にもなりました。

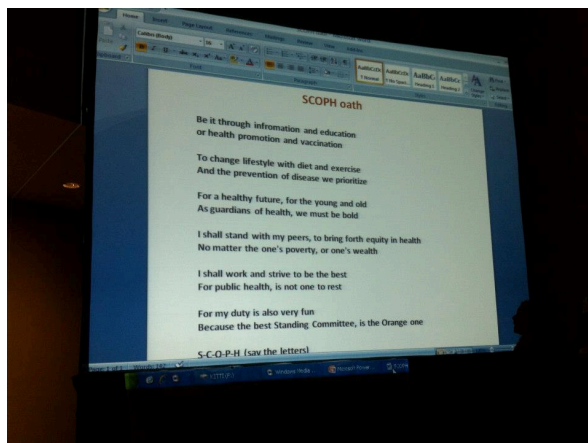
今回知った世界の多くの活動は、社会的意義がきちんと考えられていて、また各国の学生は社会のリアクションを恐れずに行動しているという印象でした。一方で、SCOPH-Japan、各プロジェクトは何を目的として、どう社会(他者)にアプローチして行きたいのかというところが世界に比べて詰め切れていない、あるいはそのアピールが足りないと感じました。

日本社会において、改善、還元、変革「できる」と考えること、公言することは時におごりやエゴに捉えられがちです。ところが実際には、社会を、他者を「必ず変える」という目標をもって活動しないといつまでもただの学生の自己満足にしかかなり得ない。この事を改めて自分自身へ突きつけざるを得なくなったことが、今回の参加における一番大きな収穫でありました。

とは言っても、今までの SCOPH-Japan は何かを変え続け、誰かの心を突き動かしてきているはずですが、何もできない、何もしてこなかった訳では決してありません。これを機にもう一度 SCOPH-Japan を見つめ直して、より影響する SCOPH、影響が見える SCOPH を作っていきたいと思います。



Project Fair(S.I.S.M./イタリア)



SCOPH oath(SCOPH 宣誓)



SCOPH×SCORP(mental health)

Parallel Session(Cancer)

